

令和 7 年度 県立守谷高等学校自己評価表

目指す学校像		(1) 知(確かな学力)、徳(豊かな心)、体(健やかな体)のバランスのとれた「生きる力」を育み、心身ともに健康で、地域や社会に貢献できる学校 (2) キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた進路実現ができる学校 (3) 保護者や地域社会との連携を深め、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される学校		
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	自らを律するとともに、生涯にわたって学ぶ意欲を持ち、多様な他者と協働して、地域や社会に貢献しようとする人材		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた、きめ細かなキャリア教育や多彩な特別活動を通して、大学進学から就職までの進路希望実現		
	「入学者の受入に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	将来を見据えて、主体的に行動し、自身の可能性を切り拓こうと学習や特別活動に積極的に取り組む生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
授業改善 ICT機器を活用した授業は、アプリ等の普及もあり生徒・教員ともに慣れてきて、少しずつ授業改善にまで踏み込めるようになった。相互授業参観も、前期は他教科の参観者も見られたが、後期は行事等が立て込んでおり、活発に実施できなかった。		授業改善を主とした学力の向上	① 主体的・対話的で深い学びに向け、研修等を通じてICT活用指導力を高めるとともに、研究・実践を通して授業改善に努め、学校評価に係る生徒による授業評価の「授業満足度(KPI)」の平均値3.4以上を目指す。	4
			② すべての教員が年1回以上授業を公開する授業研究会を通して、教師一人一人の授業力向上を図る。	4
			③ 観点別評価について、さらに研究を重ね、目標と指導と評価の一体化を図り、授業の改善を行う。	4
基本的生活習慣の確立 昨年度は大きな目標であった、遅刻数30%減(前年比)を達成することができた。しかし、特定の生徒が遅刻を繰り返すことは続いているので指導が必要である。 また、交通マナーについて地域からの苦情が多いので、HRや集会などをおして繰り返し伝えていきたい。		探究活動等の充実による課題解決能力の育成	④ 各教科の授業や総合的な探究の時間をはじめ、学校の教育活動全体を通して、自ら課題を見つけ、主体的に学んだり、考えたりすることで、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。	4
		生徒の希望や資質・適性に応じた進路実現	⑤ 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度を育て、自己のあり方生き方について考える力を醸成する。	3
			⑥ キャリアガイダンスを計画的・組織的・系統的に実施し、生徒の進路に対する意識の高揚を図る。	5
		基本的生活習慣の確立	⑦ 面談を通して生徒の希望及び資質・適性を的確に把握し、それらを踏まえた適切な進路指導により生徒の進路希望を支援する。	5
			⑧ きめ細かな生活指導を通して、規範意識の高揚と公共の場におけるマナーの向上を図る。	3
			⑨ 規則正しい生活の習慣化を図り、学校全体での遅刻回数を昨年度よりさらに10%削減する。	3
			⑩ 薬物乱用防止やSNS上のトラブル、交通法規遵守に対する意識を高め、健康で安全な生活を送ろうとする意欲を高める。	4

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
特別活動・部活動の活性化 生徒の活動や学校行事が新型コロナ流行以前に戻りつつあるなかで、生徒会や行事を企画運営する生徒たちは、達成感を得るとともに自身の成長を実感している。一方で、部活動の活性化による遠征費の高騰など、予算面での課題もある。	特別活動・部活動の活性化	⑪ ホームルーム活動、学校行事や生徒会活動、部活動において、生徒を主役とした活動を充実させる。生徒会アンケートを通して、生徒の意見を反映させた活気のある学校をつくる。	5
		⑫ キャリアパスポート及び守谷高校オリジナル手帳（もりすけ）の活用をとおして、生徒自身が自らの学びの見通しをたて、事後に振り返ることで、主体的に学びに向かう力を育む。	4
		⑬ 「茨城県部活動の運営方針」に定められた活動時間等を遵守し、部活動についての運営体制の見直しと意識改革を図る。	4
働き方改革 令和6年度の時間外在校時間の平均は前年度より大幅に減少した。また、Classiの活用や18時以降の電話をメッセージ対応にすることで保護者対応にかかる時間を短縮することができた。	校外への広報と連携の充実	⑭ HPの発信量を増やすとともに、インスタグラムやPTA会報などさまざまなメディアを活用し、情報発信を活発化し、本校の魅力を伝える。	4
		⑮ 保護者との連携をさらに深めるとともに、地域の活動に積極的に参加したり、近隣小中学校との交流を進めたりすることによって、地域社会との連携の充実を図る。	4
	働き方改革	⑯ 質の高い授業や個に応じた学習指導を実現するために、学校や地域の実情を踏まえ、教師が担うべき業務を整理し、最適化を図る。	4
		⑰ ICTを活用し、仕事の削減・効率化に努める。	4

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る	漢字検定に積極的に取り組ませ、漢字力、語彙力を高める。	3	3.6	・漢字検定の受検者と合格者を増やせるよう、生徒への案内を徹底し、課外のやり方を見直す。 ・ICTを有効的に活用し、語彙力や情報収集スキルを身につけさせる。
	主体的・対話的で深い学びの実現に努める。	様々な文章を読み、適切な言語活動の機会を設けることで、思考力・表現力の向上に努める。	4		
		多彩な教材を用いて、現代社会の複雑多様な言語生活への適応を図り、読解力の向上に努める。	3		
		ICT機器等を用いて、様々な観点から情報を収集整理するスキルを身につける。	3		
	生徒の実情に応じた授業の確立に努める	相互授業参観や各種研修等で得た知識・スキルを教科内で報告するとともに、自己研鑽に努める。	5		
地歴・公民	基礎学力の向上を図る	基礎的な用語や政治・社会制度などを理解させ、卒業後に役立つ学力を培う。	4	4.4	・社会科室を有効活用する為に、使用管理用のホルダーを作るなどの工夫をしていく。 ・相互授業参観の教科内での実施回数を増やし、情報の共有化を進める。
		生徒による授業評価を実践し、生徒の到達度を把握するとともに、個別指導につなげられる観点別評価の検討に努める。	4		
	主体的・対話的で深い学びの実現に努める。	ICTを活用し、様々な事象に対して身近なものとして主体的に捉えさせる。	5		
		1人1台タブレット端末を活用した探究学習を推進する。	5		
		白地図やプリント・整理ノートなどを活用し、生徒同士の対話を取り入れながら理解度を深める。	4		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
地歴・公民	社会的事象への関心と探求心を引き出す授業を展開する。	問題意識を明確にするための社会的事象との出会いの場を設定し、ニュース検定など資格取得や課題探究をさせる。	5		・教科全体として重複する内容を避け、効率的な指導ができるようにする。
		社会問題に対して関心を持ち、解決の方法および自分の意見を確立できるように、身近な事象を取り入れるよう努める。	4		
数学	基礎学力の向上を図る	生徒の実態に応じて、各単元の導入時に既習の基礎事項を復習し、新しく学習する単元へのスムーズな取り組みを促す。	4	3.0	中学校までの内容を復習させたいが、授業ではその時間が取れていない。 次年度から第1学年も習熟度別ではなく、クラスごとの授業になるため、指導方法の見直しが必要。
		学習内容定着のため、反復練習に適した練習問題を準備し、なるべく多くの問題を解く機会を与え、生徒が各自の疑問点に気づくよう促し、問題解決の手助けをする。	4		
		小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な場合は復習の時間を設ける。	2		
	家庭学習習慣の定着に努める	ワークノートを定期的に点検し、家庭学習の習慣が身につくように努める。	4		
	数学がわかる喜びを実感する授業への改善に努める	積極的に授業を公開し、授業内容や方法について教科内で研究協議する。	3		
		各種研修会に積極的に参加し、教科内で報告するとともに自己研鑽に努める。	2		
理科	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	各種研修会や相互授業参観を通して、授業の改善を図る。	4	3.7	・実験の代替になるような演示の映像教材や動画を充実させる。 ・実験プリントを共有するなどして、観察・実験を定期的に実施する。 ・観察・実験後の指導の工夫(考察や探究活動の強化)
		ICT機器を有効に利活用し、学習の質を高める。	4		
		授業や学習プリント等を工夫し、個別最適な学びができるよう指導する。	4		
	科学的な思考力・表現力の育成を図る	考察・表現することの苦手意識を改善するため、ワークシートに考察部分の方向性を示す。また、対話的な学びを促進するために、言語活動の工夫に努める。	3		
	科学的に考察する能力と態度を育成する	自然の事物・現象について理解を深めるために、日常生活との連携を図る。	4		
		安全かつ適切に観察・実験が実施できるよう工夫改善を図る。	4		
保健体育	基礎体力の向上を図る	体力テストを実施し、運動能力を把握する。	5	4.3	・体力テストA+B群の割合を増やすとともに、持久走を表彰することで全体の水準を上げて、健康増進を図る。 ・さまざまなスポーツに触れさせ、生涯スポーツへと繋げる。
		縄跳び・マラソンを必修とし、基礎体力を向上させる。	4		
	健康的な生活を明るく前向きに展開する	自分自身の成長・発達をしっかり受け止め、さまざまな課題に対処していく力をつける。	4		
		生活習慣病などに適切な配慮ができ、心身ともに豊かに過ごしていける力をつける。	4		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
芸術 (音楽)	音楽の基礎的知識を身につける	学習プリントを利用して、楽語や形式を学習作品と結びつけながら、具体的に理解できるよう工夫する。	4	4.3	・評価規準を見直し、より良い評価・学習指導を目指す。 ・ICTを活用した学習活動を充実させる。
	表現力の充実を図る	実技試験や発表する機会を通して、表現することの楽しさや達成感を味わわせる。	5		
	鑑賞能力を高める	音楽作品の聴き方と、感じたことを適切な言語で表現することができるよう工夫する。	4		
芸術 (書道)	授業を充実させる	様々な用具用材を使用した作品作りを通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育む。	4	4.0	・鑑賞の学習指導を充実させる。 書道Ⅰにおいて、内容をより整理し、創作活動を充実させる。
	表現力指導の充実を図る	臨書と創作の指導に努め、自己を表現させる力を身につけさせる。	4		
	鑑賞力指導の充実を図る	様々な作品を鑑賞させ、説明事項や感想を書かせることによって、鑑賞力を高めるとともに、書についての知識を身につけさせる。	4		
英語	基礎学力の定着及び向上を図る	授業や学習プリント、課題等を工夫し、生徒が見通しをもち積極的に学習に取り組むことができるようにする。	4	3.4	・英検受験者数が増加傾向にあり、合格率を上げる指導の工夫をする。 ・現在の課外のあり方を見直し、実施方法の改善を図る。 ・相互授業参観の実施が不十分であったため、参加を教科で促す。 ・GTEC、音読アプリについて実施方法を見直す。 ・ALTの授業はよく計画されているものが準備されており、さらなる活用をする。
		小テストや月例テストを活用し、基礎学力の定着を図る。	4		
	主体的・対話的で深い学びの視点から4技能をバランスよく指導する	ペアワーク、グループワークを通し、インプット及びアウトプットを連動させ、4技能統合型の指導をする。	3		
		電子黒板・タブレット等のICT機器を十分に活用し、実践的な英語力を育成する。	4		
		ALTを活用することによって、英語でコミュニケーションを図る喜びを感じさせる。	4		
	各種検定試験や外部模試に対応した授業の充実を目指す	進路を意識させ英検等に積極的に取り組ませるため、課外を実施し参加を促す。	3		
		GTECの結果を共有・分析し、3年間を見通した指導を展開する。	3		
	教員授業改善を主とした指導力の向上を図る	相互授業参観を通して教科内で情報を共有し、授業改善に努める。	3		
		研修等への参加を促し、授業力を向上させる。	3		
家庭	家庭の基礎的・基本的な知識を身につけさせる	学習ノートや独自に作成した学習プリントを使用し、実生活を振り返り、学んだことと結びつけながら具体的に理解できるよう指導する。	4	3.8	・十分な実習時間を確保したが、実習により身についた知識・技術を公正に評価するために、評価物の内容や評価観点を見直す必要がある。 ・提出物も態度や知識だけでなく、生徒の思考・判断・表現が見とれる内容に精査する必要がある。
	家庭生活を向上させるために必要な基礎的・基本的技術を修得させる	実習時間を確保し、生活に必要な基礎的・基本的な技術の定着を図る。	4		
	生活について見直し、適切に判断し工夫創造する能力を身につけさせる	5月の連休中に家庭クラブ週間を設け、家庭生活の見直しを図る。授業で学習したことを活かし、夏季休業中にホームプロジェクトを実施する。冬季休業中にも5月と類似の課題を与え、家庭生活の見直しを、家族とのコミュニケーションをとりながら実施する。	4		
	授業に意欲的に取り組むとともに実践的態度を身につけさせる	定期的に課題を点検し、提出物の充実を図る。	3		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
情報	情報社会を支える情報技術の役割や仕組みを理解し、情報社会の課題について考える	基本的な情報リテラシーを身につける。	4	4.0	・欠席生徒(特に確認試験など)の対応を如何に行うか。 ・夏季休業中の課題の理解が不十分で実施できていない生徒が多数いた。
		情報安全（法律や個人の責任など）を学ぶ。	4		
		ネットワークを適切に活用して、問題解決に必要とされる事柄（問題の明確化、情報の収集・整理・分析、解決策の検討など）を体験的に学ぶ。	4		
教務部	円滑な学校運営に努める	各校務分掌・学年・教科との連携を密にし、円滑な学校行事の運営に努める。	5	4.3	・タブレットやモバイルバッテリーを授業時間中に借りに来る生徒が多い。 ・仕事の分担の見直しと、各仕事のマニュアル化を進めていきたい。 ・相互授業参観は前期は活発であるが、後期は形式的に実施しているだけになっている。
		統合型学校支援システムの管理・運営、PC管理、緊急メール配信など、ICT関連の業務を遅滞なく実行する。	5		
	広報活動の充実	夏・秋のオープンスクールを充実させるとともに、地域の進学相談会や中学校・塾訪問などを通して、中学生や保護者に積極的にPRする。	4		
		ホームページの発信量を増やすとともに、インスタグラムやPTA会報、学校パンフレットなどのさまざまなメディアを活用し、情報発信に努める。	4		
	基礎学力の定着を図る	主体的・対話的で深い学びのため、相互授業参観など校内研修の充実と、目標と指導と評価の一体化を図り、授業の工夫改善を行う。	4		
生徒指導部	遅刻、服装頭髮指導を徹底する	週番体制を組んで毎月遅刻指導を実施する。	5	4.4	・遅刻者数増加で特に精神面の不調による遅刻が増えている。支援方法を考えていく必要がある。 ・自転車バイクの乗り方での苦情が増えている。交通安全指導に力を入れていく必要がある。
		始業式及び定期考査最終日に全校一斉の服装頭髮指導を行う。	5		
		マナーアップ講演（習）会を実施する。	5		
	交通マナー、安全意識の高揚を図る	学年ごとに交通講話を実施する。	5		
		交通安全運動に積極的に参加するとともに、自転車・バイク通学者への指導を徹底する。	4		
	心の教育をする	他人の考えや、気持ちを理解できるようにし、いじめのない学校作りを日頃から授業やLHRを通して指導する。	3		
進路学習支援部	進路実現を図る	各学年との連携を密にし、生徒の進路希望の状況を把握し、個に応じた支援をする。	4	4.0	・1・2年生のOCや職場見学会への参加をもっと活発にすることで安易な進路選択を避ける。 ・看護医療希望者が減っている傾向にある。看護医療課外をうまく活用できるようにする。
		進学、就職、公務員、看護医療のそれぞれの分野で系統立てて指導にあたる。	5		
		進路に応じた面接指導や適性検査を実施し、進路実現を支援する。	5		
	進路意識・職業観を高める	LHR、ガイダンス、総合的な探究の時間を活用し、主体的に進路学習に取り組ませる。	4		
		職場見学会、OCなどへ積極的に参加させ、進路選択の具体的イメージを持たせる。	4		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
進路学習支援部	学力の定着及び向上を図る	平常課外、長期休業課外を実施し、学力を養う。	3	4.0	・課外の参加人数が少なかった。実施方法などを再検討する必要あり。 ・各種検定の受検者数が増加したのはよかった。ニュース検定は合格率が高かった。英検や漢検の合格者の割合が伸びないので対策を講じる必要あり。 ・探究学習とチャレンジプロジェクトをより連携させることで生徒の課題解決力を育成する。 ・校内研修や相互授業参観の活性化を図ることで授業力向上に繋げる。
		実情に合った模擬試験を実施し、進路選択に役立てる。	4		
	資格検定の取得を奨励する	資格検定の必要性や重要性について情報発信する。	5		
		検定課外を実施し、受検者数と合格者数を増やす。	3		
	「総合的な探究の時間」を企画・実施する	学年と連携して、授業設計をする。	4		
		チャレンジプロジェクト（探究活動型）の予算を使って、外部人材を積極的に活用する。	4		
	生活習慣の確立を図る	「もりすけ」を活用し、自己管理能力を育成する。	4		
		学校生活の記録を残し、日々の生活の振り返りを促す。	4		
	教員の授業力向上の取り組みを推進する	進路指導力、授業指導力向上を目的として校内研修を企画・実施する。	4		
		ICT機器やアプリの充実を図る。	3		
特活部	ホームルーム活動や学校行事を通して協働の精神を養う	HR活動や委員会活動、学校行事等を通して自立心や協調性を醸成する。生徒が主体となった企画・運営が実現できるように指導する。	4	4.0	・2回戦が笠間球場となったため、3学年による応援に切り替え、熱中症の生徒の抑止につなげることができた。来年度も熱中症の抑止を念頭に計画する。 ・3年連続の蒼夢祭は雨天にもかかわらず入場者数が増加し、ある程度成功したといえる。毎年開催が定着したので、課題を整理して来年更に良いものにしていく。
	部活動を含む各種課外活動への積極的な参加を促す	各種課外活動において生徒の自主的・自発的な活動ができるよう適切な指導・援助を行う。	5		
		生徒が他者と協働し主体的に課題を解決する態度を養う。また、部活動については、地域移行に向けた準備を進め、研究会や情報交換会などを実施する。	4		
	様々な体験活動を通して公共の精神を養う	地域のボランティア等に対しての積極的な参加を促し、自然体験・社会体験等の体験活動を通して、自主性や社会性を高め、社会貢献及び福祉活動等への関心が高まるように指導する。	3		
保健厚生部	心身の健康に関する知識や能力を育て、健康な体をつくる	健康状態の把握に努め、消毒・換気を促すなど適切な指導や援助を行い、疾病等の予防と管理を徹底する。	4	4.0	・安全点検の回答率が3割程度なので、回答率が上がるよう、周知する。 ・SCのさらなる活用で、担任の面談・相談時間を減らせるよう努める。また、年度初めはSC継続の生徒が多いので、新入生の情報を早めに入れ声かけ・調整する。 ・心の健康観察の回答率が低かった。生徒から声が上げられるような周知方法の改善。
	心身の健康の保持増進に努める	教育相談活動の充実を図り、スクールカウンセラー等を活用して生徒の精神面の健康の保持に努める。	5		
	健康で安全な学校環境の整備に努める	施設設備の安全点検・管理の徹底を図り、事故や災害が発生した場合には適切な応急処置や安全処置ができるよう学校安全の推進を図る。	3		
		防災についての意識を高め、状況に応じた安全確保ができる態度を身につけさせる。	4		
		環境美化意識を高め、校舎内外の清掃に努める。	4		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
図書部	利用しやすい図書館を目指す	利用者が閲覧しやすい環境を整備し、授業での利用を促していく。	4	4.0	・図書館利用者数と貸し出し冊数を増やす。 ・図書委員会活動の活発化と自主的な運営を目指す。
		DVD鑑賞コーナーやブラウジングコーナーを整備して、校内の読書交流スペースを設ける。	4		
	本の貸し出し冊数を増やす	図書だよりを教室掲示に加え、Classiで配信することにより、貸出率の向上を目指す。	4		
	選書の充実を図る	生徒の読書傾向を加味しながら、幅広い分野からの選書に努める。	4		
		授業で扱うトピックに合わせた選書や、小論文対策など進路関係参考書とジュニア新書の充実を図る。	4		
	図書館主催の行事を行う	生徒参加の季節行事等、図書館からの積極的な発信に努め、図書委員会活動を活性化する。	4		
渉外部	PTA活動全般の活性化と充実を目指すとともに、業務内容の精選を図る	学校諸行事及びPTA活動に対し、役員だけでなく、広く会員が参加できるよう企画し、会員相互の親睦を深める。	4	4.2	・より多くの保護者が気軽に活動に参加できるような雰囲気づくりに努める。 ・文書通知とclassi配信のハイブリッド化により、各種通知の周知徹底を図る。 ・PTAから後援会への改変を丁寧に説明し、円滑な移行を図る。
		本部役員と各専門委員との連携を図り、学校行事の円滑な運営に努める。	4		
		本校PTAの在り方や業務内容について、全職員・保護者と連携しながら再考し、PTA会則ならびに慶弔規定の見直しを図る。	5		
		会員への連絡の周知度を高めるとともに、学校からの通知が会員に届くように進める。	4		
	同窓会活動の充実を図る	同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化を図り、同窓生の連携を深める。	4		
1 学年	基本的生活習慣の確立と自己管理能力の育成を図る	学年集会に加え、日常での生活指導を通して服装、挨拶、言葉遣い、時間の厳守、規則・期限の厳守等の指導を徹底し、規範意識を高める。	4	3.7	・時間の厳守や規則・期限の厳守を引き続き指導していく(ベル着席・準備等)。 ・中だるみの学年になるので、日常のコミュニケーションと指導を徹底し、安心・安全な学校生活を意識させる。 ・勉強面での声掛けを行っていく。特に検査前は学習にもっと取り組ませたい。 ・様々な資格取得への挑戦を促す。 ・基礎学力の向上。また、上位層の学力をもっと伸ばしていきたい。
		「もりすけ」やICTを活用し、必要な情報の収集やスケジュール管理を自分で行い、自己管理能力のある生徒を育成する。	4		
	前向きに学習する姿勢・挑戦する気持ちを育て、基礎学力の定着を図る	中学校の復習を含めた基礎学力の向上を図り、高校での授業理解につなげる。また、自学ノートや課外などで、前向きに学習して進路実現に向けて努力する姿勢を育てる。	3		
		漢検・英検・数検やニュース検定等、様々な資格取得への挑戦を促し、合格を目指して学ぶ達成感を得て自信や自己肯定感を持たせる。	4		
	進路意識を高め進路の方向性の明確化を図る	2年生でのコース選択に向け、進路に関する適切な情報を与えるとともに、生徒個々の希望・適性に応じた指導を行う。	4		
		探究やHR活動を通して、長期的な展望に立った進路の意識づけを行うとともに、社会の一員としての自覚を持たせ、自己のあるべき姿を考えさせる。	3		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
2 学年	規範意識を高め、基本的生活習慣の確立と自己管理能力の育成を図る	ルールや時間を守り、修学旅行を含む集団生活を通して、自らの役割を自覚し全うできるよう指導する。問題行動に対しては家庭との連絡を密にし適切に対応する。	4	3.9	・遅刻常習の一部生徒の遅刻数・欠課時数の改善を図る。 ・いじめと特別指導の件数が多く、一人一人の対応に苦慮したことが多かった。真摯に生徒・保護者と向き合い、改善に努めていきたい。 ・就職希望者は現時点で少ないが、明確に進路の構想が立っている生徒ばかりでは決してなく今後、何が必要なのか丁寧に指導していきたい。 ・探究では「なかよし学園」や「LXデザイン」など外部講師を活用できたことは大変プラスになった。進路にその成果が活かせるようこれからも指導していきたい。
		欠席・遅刻・早退を減らすために、生活習慣の確立と規律正しく生活することの大切さを理解させる。	3		
		「もりすけ」やICTを活用し、必要な情報の収集やスケジュール管理を自分で行い、自己管理能力を持ち、希望する進路の達成ができるよう先を見て行動できる力を養う。	4		
	前向きに学習する姿勢・挑戦する気持ち育て、基礎学力の定着を図る	通常授業や月例テスト・長期休業中課題などで、基礎学力の向上を図り、家庭学習や自主的な学習の習慣を身につけることで基礎学力の定着につなげていく。	4		
		文科系や理数系は課外授業の活用、自宅学習の助言・教材提供を積極的に行い、学習に対する授業での意識づけによって、一般入試にもチャレンジできるような学力をつけることを目指す。	3		
		資格試験へのチャレンジを促す。資格取得を達成させることで、生徒自身の努力に対する自信をつけさせ、学習を含め何事にも前向きに挑戦する姿勢を養う。	5		
	進路学習を探究活動によって深め、進路実現への一歩とする	総合的な探究の時間における活動を通じて、目指す進路や夢の実現、その先の社会貢献についての理解を深めさせる。自己の考えを主張・表現・発表できるといった社会で必要とされる力を身につけさせる。	5		
		後期には面接ノート作成といった進路に関する内容を開始、この時期を実質的な入試・入社試験のスタート段階とし、進路実現に向けて行動する意識を高めさせる。	3		
3 学年	自主的に行動し、進路希望の実現を図る	個々の生徒の進路希望に加え、その個性や適性を的確に把握した上で、本人・保護者・担任の三者で十分にコミュニケーションをとり、情報を共有する。それに基づき個々の進路実現のためHR活動、学年集会、ガイダンスなどで自主的に活動できるよう指導を行う。	5	4.4	・進路活動をしっかりと「自分事」として理解させ、全てにおいて自主的に行動させる。 ・「もりすけ」の更なる活用のため、記入指導の徹底。 ・進路指導に関しては学年だけでの対応は難しい。進路学習支援部等も学年を越えて協力していただいたが更なる指導体制を構築すべき。 ・3年前期までに資格・検定の取得をする。そのための指導や一斉に学習できる時間を確保。N検やリテラス検等学年一斉で取り組める検定を必須にする。 ・基本的なマナーやルールの遵守意識を高める。遅刻・欠席等の削減に苦慮したため改善策が必要。
		「もりすけ」やICTを活用し、必要な情報の収集やスケジュール管理を自分で行い、自己管理能力を持ち、自らを律して期限を見据えて行動する力を養う。	4		
		総合的な探究の時間等で、進路別学習の実施及び面接練習指導の充実を図る。	5		
		進路実現の一助となる資格・検定を取得させるための環境を設け、積極的な受検を促していく。	4		
	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る	巡回指導、登校指導、授業や学校生活において、生徒への日々の声掛けを継続的に行うことで、生徒とのコミュニケーションを密にして信頼関係を築く。	4		
		HRや学年集会、学年通信等を通じて、ルールやマナーを守ることの意義と、誠実・素直でいることの大切さを伝える。	4		
		欠席・遅刻・早退を減らすために、基本的生活習慣の確立が卒業後の人生や、進路実現に結びついていくことを自覚できるよう折に触れて話をする。	5		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
	学力向上、挑戦する気持ちの育成を図る	授業や長期休業中課題などで、基礎学力の向上を図り、家庭学習や自主的な学習を継続させる。	4	4.3	・基礎学力の向上がなければ進学・就職のどちらも厳しくなっていくと思われる。特に理系基礎学力の向上が必要。 ・ボランティア等に積極的に取り組ませ進学・就職で必須な自己PR等に繋げていく。
		資格取得や入試などで諦めず挑戦する気持ちを育成し、目標を持って取り組む姿勢を身につけさせる。	4		
		学校行事では、協調性をもってお互いの意見を尊重しあい、充実した高校生活に結びつける。	5		